死とまつり

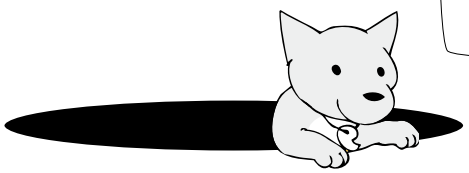
ワークシート６

大阪府立
弥生文化博物館

弥生時代の墓

人が亡くなると棺に入れ、地面に掘った穴に埋めます。これを墓といいます。

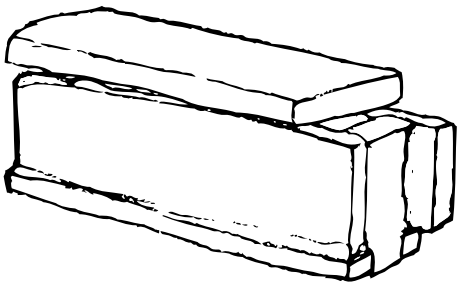
弥生時代には、日本の各地域で違う墓が作られていることから、地域ごとで葬式などの習慣が違っていたことがわかります。



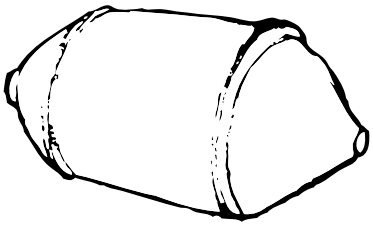
弥生時代のお墓では、棺をいれた穴の上に土を盛りあげて、小さな山のようにしていたよ。
その後は、底に穴をあけた土器をならべておまつりをしていたんだ。

☆　２つの棺をくらべてみよう

展示してある２つの棺は何でできているのか、（　）に書きこんでみよう。また、どこの地域でみつかったのかな。例のように、地図の中から探して〇で囲んでみよう。



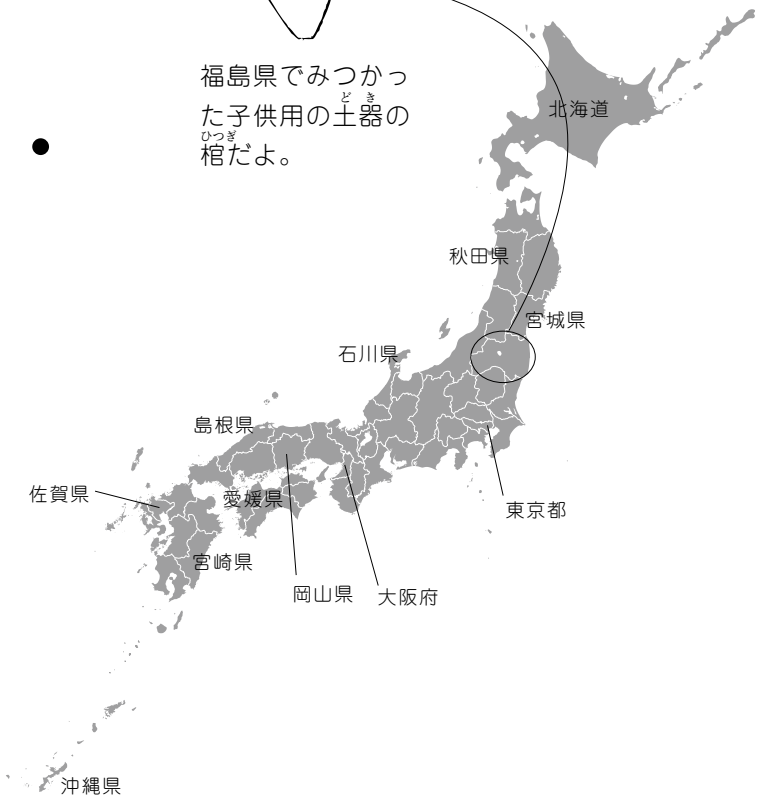
（　　）



（　　）

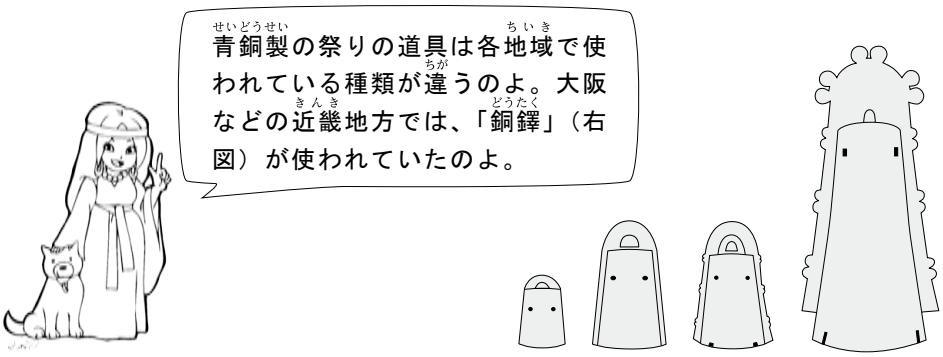
例

福島県でみつかった子供用の土器の棺だよ。



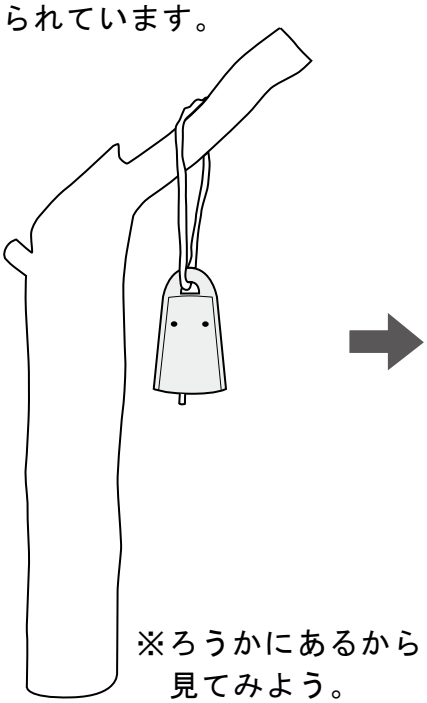
弥生のまつり

今でも夏や秋などには祭りをおこない、神に農作物の豊かな実りを願い、感謝します。今では地車や神輿が祭りの道具として使われていますが、弥生時代には銅鐸や銅矛などの「青銅器」が使われていました。



聞く銅鐸から見る銅鐸へ

銅鐸は、初めは大きさも小さく飾りも少ないけど、しだいに大きく、飾りも多くなっていきます。このことから“音を鳴らす道具”からその姿を“見る道具”へと変わっていったと考えられています。



※ろうかにあるから見てみよう。

☆復元された「平成の銅鐸」を描いてみよう。

※１階のエントランスのまん中にあるよ。